

## 令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果 課題の改善に向けた取組の重点

1 調査結果を踏まえた今後の取組について	.....	1
2 「課題の改善に向けた取組の重点」の活用	.....	2
3 問題別調査結果【小学校 国語】	.....	3
4 問題別調査結果【小学校 算数】	.....	5
5 問題別調査結果【中学校 国語】	.....	7
6 問題別調査結果【中学校 数学】	.....	9
7 分析資料の活用方法(S-P表・学力層分析)	.....	11

令和6年8月8日

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

## 調査結果を踏まえた今後の取組について

各学校において、全国学力・学習状況調査の結果を分析することで、子ども一人ひとりの学びの状況をしっかりと把握し、各学校の課題に応じた取組を進めていただくことが重要です。

子どもたちの「分かった」「できた」という喜びや達成感につながるよう、共に取り組んでいきましょう。

### ◆調査結果を踏まえた2学期からの取組

#### 各教科等における「学んだことを基に、自分の考えをまとめ、表現したり記述したりする」指導の充実

##### ○各教科等における「重点的に指導する内容」の共通実践

今回の調査で明らかになった「重点的に指導すべき点」を踏まえて、本冊子でまとめている教科ごとの取組や調査の関連資料等を参考に、共通実践を進めます。

特に、文章や資料等を読んで、正確に内容を理解し、学んだことを基に、自分の考えをまとめて、表現したり記述したりすることについて、重点的に指導します。

##### ◆小学校低学年からの国語科を中心とした言語活動の充実

小学校低学年から、言語能力を育成する中核的な教科である国語科を要として、各教科等の特質に応じて言語活動の充実を図ります。



##### ◆I C Tの効果的な活用の促進

デジタルドリルの学習ログ等、教育データを活用し、子ども一人ひとりの学習状況を把握するとともに、教員の指導改善や子どもの学習改善に役立てます。

また、子どもたちが課題の解決に向けて、互いの考えを共有したり、まとめたり、表現したりするなどの学習活動において、効果的な場面でI C Tを活用します。



##### ○各学校における調査結果等の分析

##### ◆分析資料を活用した課題の焦点化と取組の明確化

「解答状況整理表（S-P表）」や「学力層（四分位）分析グラフ」等の分析資料を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着等を含めて各学校の課題を焦点化します。その上で「重点的に指導すべき点」を明らかにし、教職員全体で共通理解を図ります。

# 「課題の改善に向けた取組の重点」の活用

① 分析資料等を活用し、課題を重点化する。

・「調査結果概況」「問題別調査結果」だけでなく、S-P表、学力層（四分位）分析グラフ等の分析資料を活用し、学校として大まかな課題ではなく、「重点的に指導すべきと考えられる設問」を絞りこみ、課題をできるだけ重点化します。

② 「重点的に指導すべき点」を明らかにする。

・重点化した課題について、「この設問を解くためには、どのような力が必要か」「その力を付けるためには、どのような指導が適切か」等を考え、「重点的に指導すべき点」を明らかにします。  
・平均正答率だけでなく、解答類型等も参考にしながら、誤答の要因を分析します。

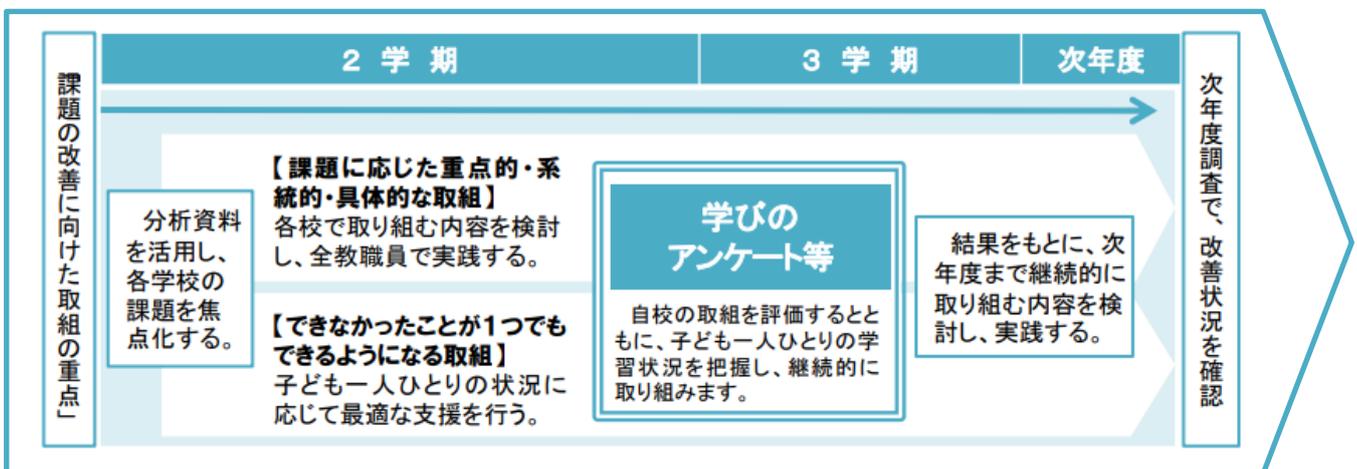
③ 2学期に全教職員で取り組む具体的な内容を検討し、実践する。

・明らかになった「重点的に指導すべき点」を基に、全教職員が各自の授業実践で取り組むことを出し合いながら、協議をします。学校や学年で統一して取り組む内容は、できるだけ重点化・具体化を図り、全教職員が日常的に実践できるようにします。

④ 取組を定期的に検証・改善する。

・短時間でも、取組について各自が振り返る時間を設定し、成果や課題、効果を実感した取組、実践上の悩み等を共有し、明日からの実践につなげます。

## ■「課題の改善に向けた取組の重点」に係るスケジュール



## ■本資料の他に参考にしていただきたい資料

### 関連資料（県教育委員会作成）

**調査結果の概要**  
本県の調査結果の概要（成果・課題）をまとめています。



**調査問題の分析**  
問題を分析し、指導改善のポイントや、授業における問題の活用例を示しています。



・ガッテン!!プリント  
・「読み解く力」対応  
学習プリント  
課題の改善につながる補充学習プリントです。

※ダウンロードには、各学校園に配付されているIDとパスワードが必要です。



### 関連資料（国立教育政策研究所作成）

国立教育政策研究所作成の以下の資料も参考にしてください。

- ◆ 調査問題・正答例・解説資料
- ◆ 報告書【速報版】・調査結果資料
- ◆ 授業アイデア例一覧（報告書に掲載）  
※報告書【確定版】は8/19（月）17:00 掲載

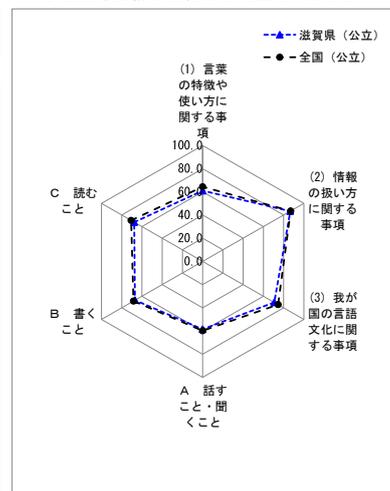


・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		滋賀県(公立)	全国(公立)	対象児童数	滋賀県(公立)	全国(公立)
		220	18,466		12,477	947,364
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			滋賀県(公立)	全国(公立)		
全体			14	65	67.7	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	4	61.0	64.4	
		(2) 情報の扱い方に關する事項	1	86.6	86.9	
		(3) 我が国の言語文化に關する事項	1	70.8	74.6	
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	58.5	59.8	
		B 書くこと	2	66.9	68.4	
		C 読むこと	3	67.7	70.7	
評価の観点	知識・技能	6	66.9	69.8		
	思考・判断・表現	8	64.1	66.0		
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	10	68.0	69.9		
	短答式	2	56.5	59.7		
	記述式	2	60.6	64.6		

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容					評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等				滋賀県(公立)	全国(公立)	滋賀県(公立)	全国(公立)
			(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと						
1一	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したのとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5-6ア		○	○	60.8	62.5	0.9	0.7
1二(1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる	5-6イ				○	○	71.9	75.9	0.9	0.6	
1二(2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				5-6ウ	○	○	51.9	52.9	0.9	0.7	
1三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したのとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5-6ア	○	○	62.8	63.8	1.3	0.9	
2一(1)	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したのとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる				5-6ア	○	○	80.4	80.3	1.1	0.9	
2一(2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したのとして、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5-6イ				○	○	86.6	86.9	1.1	0.9	
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5-6ウ	○	○	53.4	56.6	5.0	4.9	
2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(きょうぎ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	5-6エ				○	○	39.2	43.4	13.2	13.2	
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す(なげる)		5-6エ				○	○	73.7	76.0	8.1	8.0	
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	3-4カ				○	○	59.2	62.3	2.7	2.0	
3二(1)	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる				5-6イ	○	○	64.9	66.9	3.5	2.6	
3二(2)	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したのとして、適切なものを選択する	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる				5-6エ	○	○	70.4	72.5	4.0	2.9	
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる				5-6エ	○	○	67.8	72.6	15.6	12.6	
3四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる	5-6ア				○	○	70.8	74.6	10.7	7.6	

## 【小学校 国語】調査問題の結果から

### ■顕著な課題がみられた設問

- 3三 物語を読んで心に残ったところとその理由を書く設問における正答率は67.8%(全国比-4.8)であり、無解答率は15.6%(全国比+3.0)である。物語を読んで話し合ったことを踏まえて、自分の考えを記述することに課題が見られた。

### 課題の改善に向けた取組

文章を読んで解釈したことや、自分の考えを話したり書いたりしたことが、適切かどうかを見童自身が確かめる学習活動を充実させる。

#### ◆理解したことを基に自分の考えをもつ場面で

文章を読んで理解したことが確かかどうか、**文章にもどりながら吟味する時間**を設定する。



私は、オニグモじいさんの迷いからハエの女の子に対する温かさを感じたよ。



それは、どの表現から感じたの？



オニグモじいさんがハエの女の子に（文章の一部を示しながら）「わしみたいなクモが、生きるために食っているのはな」と言ってやめたところから感じたよ。

他にも、オニグモじいさんの迷いを感じたところはないかな？



（文章を示しながら）「大きな目をひらいて、いっしょうけんめいに」とあるようなハエの女の子のすなおな姿を見て…からも迷いを感じました。

どちらの表現に、より温かさを感じたのかな？



#### ◆自分の考えを表現する場面で

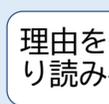
文章を読んで感じたことや考えたことを**書いたり、話したりしたことが、適切な表現になっているかどうか**を確かめる。



オニグモじいさんが、「食っているのはな」と言ってやめたのは、女の子を怖がらせないという温かい気持ちが表されていると思いました。



「心に残ったところ」と「理由」がまざってしまっているね。



理由を伝えるときには、どのように表現するとはっきり読み手に伝わるでしょうか。



「なぜか」というと「～からです。」という表現を使って書いてみます。



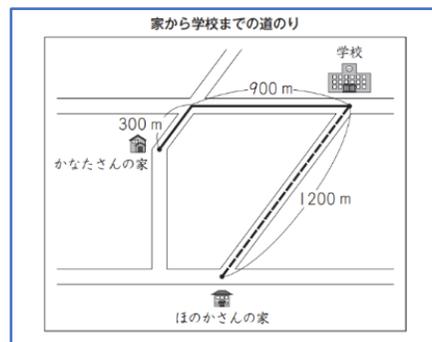
オニグモじいさんが、「食っているのはな」と言ってやめたところが心に残りました。理由は、女の子を怖がらせないという温かい気持ちが表れているからです。



## 【小学校 算数】調査問題の結果から

### ■ 顕著な課題がみられた設問

- ・ 4 (3) 「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて表す」問題の正答率は 28.5% (全国比-2.5%) である。「示された日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、道のりが等しい場合の速さを比べる際に、与えられた時間の情報を基に、どちらが速いか判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること。」に課題が見られた。



(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。

家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは 20 分間、ほのかさんは 24 分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん      2 ほのかさん

### 課題の改善に向けた取組

「数量や図形の関係に着目して、見いだした事柄についてその事柄が成り立つ理由を言葉や数を用いて記述すること」ができるような学習活動を充実させる。

#### 問題を解く(自分の考え)

1.  自分の考えを数学的な表現(言葉、式、図など)を使って、ノートや端末上に書く。

「二人の歩く速さは、どちらが速いか考えよう。」(正答: 1 かなたさん)

「どうして、かなたさんが速いと分かったのですか。」

二人の道のりが同じだから、かなたさんのほうが速い。

#### 話し合う(友達への考えの共有)

2.  自分の考えと友だちの考えを比べて似ているところや違うところを話し合う。

説明の不十分な箇所を確認することで、根拠となる言葉や数を明確にする。

「道のりが同じということだけで、速いと分かるかなあ。」

「ほのかさんよりかなたさんのかかった時間が短いことを言わないと、かなたさんのほうが速いことが分からないね。」

#### まとめ・振り返り・適用問題

3.  友達と話し合ったことを基に、自分の考えをまとめ、表現(記述)する。

かなたさんとほのかさんが歩いた道のりは 1200m で同じです。かかった時間は、かなたさんのほうが短いです。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんのほうが速いです。

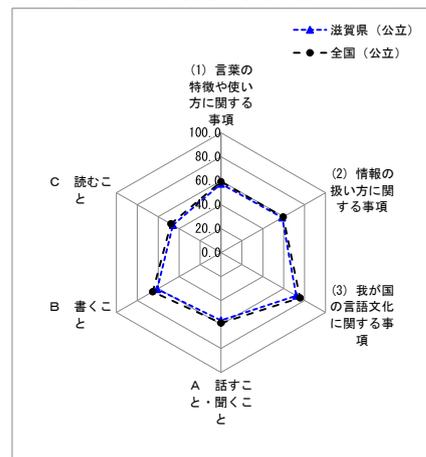
「道のり」と「時間」の関係に着目し、「速さ」を比べるには、道のりが等しいことだけでなく、かかった時間が短いことも説明することが大切です。

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		滋賀県(公立)	全国(公立)	対象生徒数	滋賀県(公立)	全国(公立)	
		97	9,268		11,073	875,574	
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)				
			滋賀県(公立)	全国(公立)			
全体					15	56	58.1
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	3	57.4	59.2		
		(2) 情報の扱いに関する事項	2	58.5	59.6		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	72.0	75.6		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	56.6	58.8		
		B 書くこと	2	61.0	65.3		
		C 読むこと	4	45.9	47.9		
評価の観点	知識・技能	6	60.2	62.0			
	思考・判断・表現	9	52.8	55.4			
	主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	9	59.1	61.0			
	短答式	3	60.4	61.8			
	記述式	3	41.3	45.5			

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
			知識及び技能		思考力、判断力、表現力等			滋賀県(公立)	全国(公立)	滋賀県(公立)	全国(公立)
			(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	(2) 情報の扱いに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項						
			A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと						
1一	話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる			1エ			61.4	63.2	0.9	0.4
1二	話し合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる			2ウ			67.6	68.5	3.6	3.5
1三	話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	1ア					43.7	44.0	1.0	0.5
1四	話し合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	話し合いの話題や展開を踏まえながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる			1オ			40.6	44.7	12.5	9.9
2一	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる			2ウ			33.8	36.3	1.1	0.5
2二	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	2ア					73.3	75.2	1.2	0.6
2三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる			2ア			61.6	64.5	1.2	0.6
2四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる			1ウ			40.2	42.6	11.3	8.4
3一	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる			1ア			79.1	81.4	1.3	0.7
3二	物語の下書きについて、文中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	2オ					52.4	53.8	1.7	1.0
3三	漢字を書く(みちたりた)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2ウ					65.4	68.8	11.8	10.2
3四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えながら描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる			2ウ			43.0	49.3	19.4	15.0
4一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる	1オ					54.5	54.9	2.5	1.8
4二	短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる			1イ			48.2	48.3	3.9	3.4
4三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解しているかどうかをみる			1エ(イ)			72.0	75.6	2.8	2.3

## 【中学校 国語】調査問題の結果から

### ■顕著な課題がみられた設問

③四 「表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する」設問の正答率は43.0%（全国比-6.3）であり、無解答率は19.4%（全国比+4.4）である。

自分の考えが伝わるように表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫することに課題がある。

### 課題の改善に向けた取組

表現の効果や工夫について理解し、生徒一人ひとりが意識して活用する学習活動を充実させる。

### ■「読むこと」と「書くこと」の学びを相互に関連付ける

[読むこと]

「読むこと」の学習において、表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考える。

簡潔な述べ方と詳細な述べ方、断定的な述べ方と婉曲な述べ方、敬体と常体、和文調の文体と漢文調の文体、描写の仕方や比喩をはじめとした表現の技法などに着目して読むよう指導する。

[書くこと]

「書くこと」の学習において、自分の考えを伝えたり印象付けたりする上で、書いた文章の表現がどのように働いているかなどを確認める。

特に、説明や具体例、描写などに着目して、これらの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどについて読み手の立場から検討し、その上で誤解のない表現やより効果的な表現になるよう指導する。

この間学んだ「倒置」を、今度、自分が詩を書く時に使ってみよう。



私が書いた文章は、伝えたいことが相手にしっかり伝わるような表現になっているだろうか。

様々な文章を読んで習得した表現の工夫を、自分が文章を書く時に生かすことにより、その効果を実感することができます。また、自分の用いた語句や表現の工夫は、読み手に伝わるものになっているのか、検証することが重要です。

### ■ICTを活用して、多くの文章に触れ、表現の工夫や効果について吟味する

書く場面や、文章を読み合って表現の工夫や効果について吟味したり検証したりする場面で、ICTを効果的に活用します。

なかなか考えがまとまらなかったから、下書きに時間がかかりそう…。

→ 学習用端末の音声入力機能を活用する

他の人はどんなふうにも書いているのを知りたい。

→ クラウドやフォルダに保存して文章を共有し、読み合えるようにする

この描写からは、書き手の考えがわかりやすく伝わってくるよ。きっとそれを意図して書いたんだね。

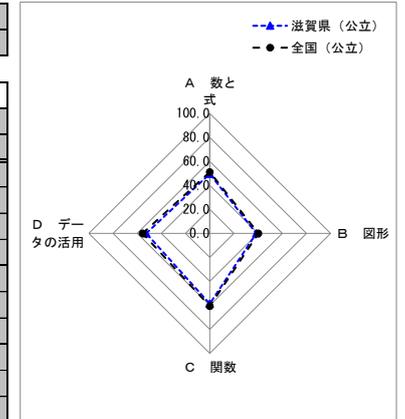
→ スタンプやコメントにより相互評価を行う

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県(公立)	全国(公立)	対象生徒数	滋賀県(公立)	全国(公立)
	97	9,265		11,088	875,952

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



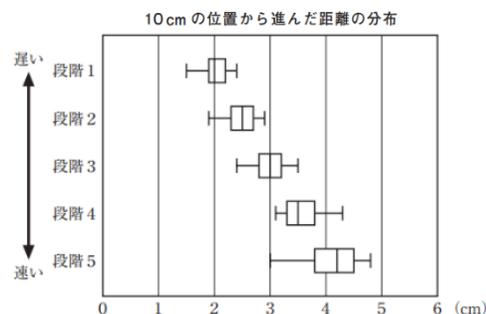
問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点	問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	滋賀県(公立)
1	nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	2(1) 7(4)				○			○	34.4	34.8	15.9	14.3
2	等式6x + 2y = 1をyについて解く	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	2(1) 7(2)				○			○	51.6	52.5	10.7	9.7
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	回転移動について理解しているかどうかをみる		1(1) 7(4)			○			○	68.1	68.3	0.6	0.3
4	一次関数y = ax + bについて、a = 1、b = 1のときのグラフに対して、bの値を変えずに、aの値を大きくしたときのグラフを選ぶ	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる			2(1) 7(7)		○			○	63.3	65.3	1.0	0.7
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる			2(2) 7(4)		○			○	71.9	73.1	5.0	4.2
6(1)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	1(1) 7(4)				○			○	89.3	90.2	3.0	2.5
6(2)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2(1) 7(4)				○			○	33.5	35.9	27.2	23.5
6(3)	正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2(1) 7(4)				○			○	39.1	41.8	33.4	29.6
7(1)	障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる			小6 1) 7(7)		○			○	71.4	74.3	6.5	5.8
7(2)	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる			2(1) 7(7)		○			○	21.9	25.9	34.4	29.4
7(3)	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる			2(1) 7(7)		○			○	44.6	48.5	1.3	0.9
8(1)	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる			2(1) 7(7)		○			○	81.7	83.4	1.2	0.8
8(2)	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いおよびその何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			2(1) 7(4)		○			○	15.0	17.1	19.3	16.4
8(3)	結衣さんがかいたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる			2(1) 7(7)		○			○	74.9	76.9	4.6	3.8
9(1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくらせるとき、AQ = PBであることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	2(2) 7(4)				○			○	22.8	25.8	39.1	33.6
9(2)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくらせるとき、∠AQCと∠BPCの大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる	2(2) 7(4) 7(7)				○			○	24.6	26.7	5.1	4.5

## 【中学校 数学】調査問題の結果から

### ■ 顕著な課題がみられた設問

- 7 (2) 「車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張できる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する」問題の正答率は21.9%（全国比-4.0）である。「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」に課題が見られた。



	10 cm の位置から進んだ距離 (cm)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
段階1	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
段階2	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9
段階3	2.4	2.8	3.0	3.2	3.5
段階4	3.1	3.3	3.5	3.8	4.3
段階5	3.0	3.8	4.2	4.5	4.8

### 課題の改善に向けた取組

「数量等の関係やデータから読み取った情報を分析・整理し、適切な根拠を基にして判断の理由を記述すること」ができるような学習活動を充実させる。

#### ① 情報を読み取る



1. 問題解決のための手段や方法を確認した上で、必要な情報を読み取る。



複数のデータの分布の傾向を比べるときは、箱ひげ図に表すとよかったですね。表した5つの箱ひげ図を比較して、どのようなことがわかりますか。

箱ひげ図の箱の位置が、だんだんと右にずれていってるね。



速さが速くなるほど、最大値も大きくなっているよ。



#### ② 考えを共有する



2. ペアやグループで、1人1台端末を用いるなどして、互いの考えを伝え合い、自分の考えと比較・検討する。



主張の根拠として何をあげればよいでしょうか。グループで話し合いました。

最大値がだんだんと大きくなっていることが根拠になると考えたんだけど。

最大値だけでは全体の傾向を判断できないんじゃないかなあ。



#### ③ 自分の考えを記述する



3. 根拠として適切なものを考察・確認した上で、記述する。

複数のデータの分布の傾向を比較する際には、代表値だけでなく、「箱ひげ図の箱の位置」や「四分位数」などに着目して多面的に吟味し、批判的に考察できるように指導することが大切です。



【振り返りの視点】  
箱ひげ図を基に判断の理由を説明するときに、気を付けた方がよいと思ったことは何ですか。



# 学校／学級別解答状況整理表(S-P表)の見方について

左から右へ、全国正答率の高い順に問題番号を記載

問題番号	2 (1)	3 (2)	2 (5)	3 (1)	1 (1)	4 (1)	1 (2)	4 (3)	4 (2)	2 (2)	1 (3)	5 (1)	3 (3)	5 (2)
問題の概要	A はじめの数が10のときの計算結果を求める	B グラフから、列車のすれ違いが起これる地点のA駅からの道のりを求める	A 計算の順番を入れ替えたものを選択し、その計算結果が何の答になるかを求める	C 列車の運行のようすが図線で表されていることの前提となっている乗客を選ぶ	D 全校生徒300人に対する上位4番を回答した生徒の割合を求める	B 与えられたことから、新たにわかることを選ぶ	D 放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める	B 平行四辺形ABCDを正方形ABCOに変えたときの四角形CEFDがどのような四角形になるかを説明する	B 平行四辺形ABODの外側に2つの点E、Fを取っても、四角形EBFDは平行四辺形になることを証明する	A はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になることを説明する	B 全校よりも1年生の回答者数によるくじ引きの方が中率が上がるかを説明する	B 8社の団体料金をこの表のA駅からの道のりから求める	A A駅からの道のりから求める	A A駅からの道のりから求める
全国(公立)正答率	89.0	78.7	37.2	66.2	54.3	54.0	41.8	41.0	40.5	35.8	24.8	14.7	12.0	8.2
正答人数の割合	80.0	68.0	53.0	52.0	34.0	53.0	56.0	23.0	32.0	36.0	28.0	10.0	4.0	
正答人数	20	17	14	13	10	14	14	5	8	9	7	3	1	

**赤色**

**P曲線:**  
問題ごとに、上から数えて当該学校／学級の正答人数の数にあたる所を結んだ線  
  
例) 該当設問の正答人数が「9名」なので、上から9人目のところに横線が引かれる

上から下へ、正答数の多い順に児童生徒を記載

学年	組	答案番号	氏名記入欄	付記欄	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	合計	正答数	正答率
3	1	0863206			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	3	8	13	13	92.0
3	1	0863210			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	8	8	13	13	92.0
3	1	0863218			1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	9	9	3	7	11	11	75.8	
3	1	0863205			1	1	1	1	1	1	1	7	1	6	9	9	7	3	10	10	71.4	
3	1	0863206			1	1	1	1	1	1	1	7	1	0	1	1	1	7	6	10	71.4	
3	1	0863206			1	1	1	1	1	1	1	7	2	1	3	1	7	8	10	10	71.4	
3	1	0863198			00	1	1	1	1	1	1	7	1	8	9	1	7	7	9	9	64.3	
3	1	0863204			1	1	4	4	1	1	1	9	1	8	3	1	2	7	9	9	64.3	
3	1	0863208			1	1	4	1	1	1	1	1	2	8	8	8	8	8	8	9	64.3	
3	1	0863213			1	1	4	1	9	1	1	1	1	8	6	6	8	8	10	7	50.0	
3	1	0863227			1	1	1	1	1	1	1	0	7	9	9	9	12	9	7	7	50.0	
3	1	0863203			00	1	1	1	1	2	1	9	7	8	9	9	12	10	6	6	42.9	
3	1	0863226			1	1	1	1	9	3	1	9	7	9	9	1	9	8	8	8	42.9	
3	1	0863201			1	1	2	1	9	1	5	0	8	0	9	0	0	9	5	5	35.7	
3	1	0863217			1	1	4	2	1	2	9	0	7	0	4	0	0	0	4	4	25.0	
3	1	0863220			1	1	4	4	0	1	3	7	7	7	0	4	9	0	0	4	25.0	
3	1	0863224			1	00	4	2	1	3	00	0	2	00	2	8	0	10	3	3	21.4	
3	1	0863200			1	2	1	2	1	2	00	0	7	00	6	0	9	10	3	3	21.4	
3	1	0863199			1	0	2	4	2	3	1	0	3	0	0	0	0	9	3	3	21.4	
3	1	0863211			1	1	5	4	9	4	0	9	3							2	14.5	
3	1	0863214			1	99	1	2	99	2	99	99	7							2	14.3	
3	1	0863216			1	3	4	1	2	99	0	3								2	14.3	
3	1	0863219			0	0	4	1	0	5	0	0								1	7.1	
3	1	0863225			00	0	4	4	99	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7.1	
3	1	0863209			00	2	4	2	0	2	0	0	7	0	0	0	0	8	0	0	0.0	

**S曲線(青)より左側の誤答(黄色セル)**

→当該児童生徒にとって比較的解答が容易だったと考えられる設問(不注意による誤答や比較的克服が容易なものと想定される設問)

**S曲線(青)より右側の誤答(橙色セル)**

→当該児童生徒が理解していない可能性が高い設問(一人ひとりの児童生徒に対し、見直し・復習などの指導を行うことが有効と考えられる設問)

全国正答率  
※小数点第1位を四捨五入して表示

**青色**

**S曲線:**  
児童生徒ごとに、左から数えて当該児童生徒の正答数の数にあたる所を結んだ線

例) 当該児童生徒の正答数が「4問」なので、左から4問目のところに縦線が引かれる

※数字は解答類型(“0”は無解答)  
※色付きセルは誤答(無解答含む)  
※線が重なった場合は、以下の順で優先して表示される  
縦線: 青線 > 赤線 > 赤点線  
横線: 赤線 > 赤点線 > 青線

当該教科の全国正答率50%以上問題のうち、正答数が2分の1以下だった児童生徒の人数及びその割合(%)

高正答率分析対象	
人数	割合
23	18.1
<	5.1 >
(	5.7)

<> 内は都道府県平均との差  
( ) 内は全国(公立)平均との差

# 分析資料の活用方法（【学力層（四分位）分析グラフ】について）

## 「学力層（四分位）分析グラフ」の概要

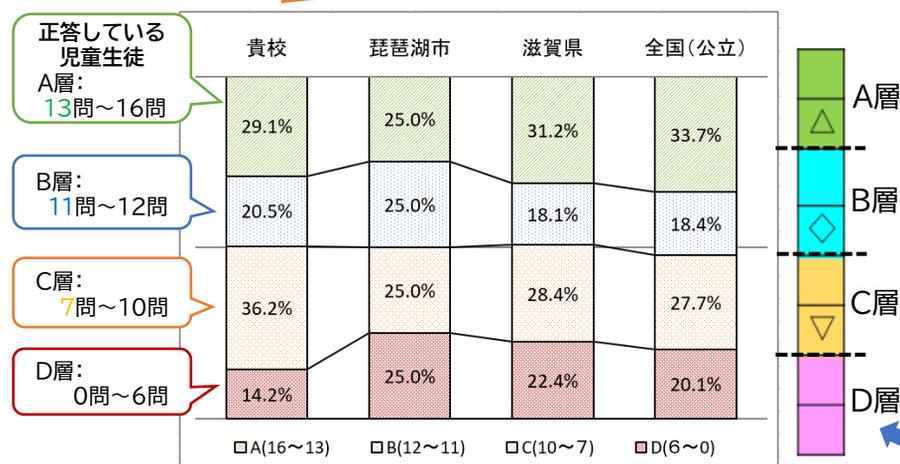
児童生徒を正答数の順に並べ替え、4等分したときの3つの区切りの値が四分位数です。提供された全国の四分位数を基に、児童生徒を4つの学力層（A層～D層）に分けたとき、各学力層の児童生徒数の割合を示したものが「学力層（四分位）分析グラフ」です。

これを活用することにより、集団の現状を客観的に捉え、習熟にあった授業のねらいが焦点化され、手立てを具体化することができます。また、D層（学力低位層）に手だてを講じるだけでよいのかどうか等、習熟度別少人数指導や各学力層の実態に応じた教材・教具の一層の充実を図ることが可能になります。

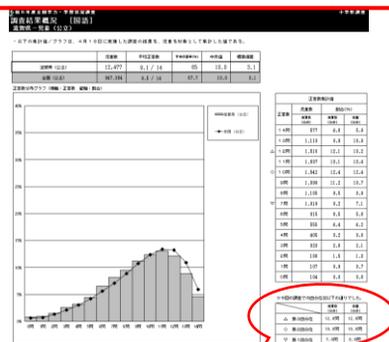
## 「学力層（四分位）分析グラフ」等の見方

例：小学校算数

**各集団のグラフ**  
全国・県・市町・学校ごとの各層の児童生徒数の割合を示しています。



## 文部科学省からの提供資料 (例:小学校算数)



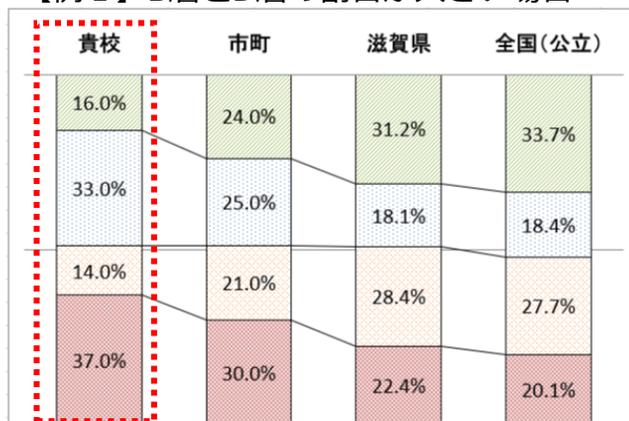
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	滋賀県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	10.0問	11.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問

全国の四分位数に基づいて児童生徒を4つの層に分ける。

## 子どもたち一人ひとりの確かな学力を育むための具体的な活用方法例

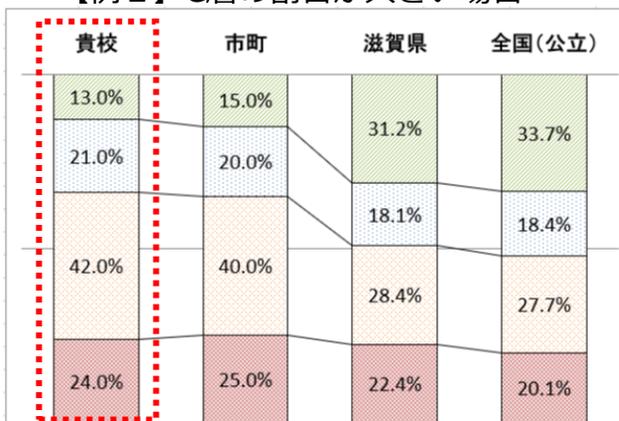
### 【例1】B層とD層の割合が大きい場合



### 習熟度別指導の工夫

算数・数学の学習で、習熟の程度の違いを踏まえた学習集団を編成し、D層の子どもがC層に、B層の子どもがA層にステップアップできるよう、学習集団に適した指導を行います。また、習熟の程度に合わせた家庭学習の工夫も併せて行います。

### 【例2】C層の割合が大きい場合



### S-P表を活用したつまずきの分析

S-P表を活用すると、C層の子どもがどの設問でつまずき、どのような解答をしているのかを把握することができます。把握した課題に応じて、指導方法を工夫することができます。

# 分析資料の活用方法【学力層分析グラフの作成について①（市町教育委員会用）】

- 使用するファイルを校種ごとに開きます。
  - ・小学校の場合：【小学校用】R6 四分位グラフ作成ファイル【全国・県・市町・貴校との比較】
  - ・中学校の場合：【中学校用】R6 四分位グラフ作成ファイル【全国・県・市町・貴校との比較】
- 市町名を【校種名】入力用シートのH1のセル（黄色）に入力する。

- 文部科学省より、市町教育委員会に提供された『令和6年度全国学力・学習状況調査 調査結果概況〔各教科〕 正答数集計値』より、全国の四分位の正答数に基づいた四分位A B C Dの各層の割合を計算する。

## （例）中学校 国語

正答数	生徒数	割合(%)		
		貴教育委員会	全国(公立)	全国(私立)
15問	8	1.4	1.6	2.0
14問	44	4.5	4.4	4.8
13問	66	6.2	6.4	7.3
12問	89	8.0	8.2	9.2
11問	91	9.0	9.8	10.2
10問	95	9.5	9.6	10.7
9問	117	10.3	10.7	10.5
8問	98	9.2	9.9	9.9
7問	89	8.8	8.7	8.9
6問	81	8.6	8.8	7.6
5問	70	7.6	6.8	6.3
4問	52	5.5	5.7	5.0
3問	38	4.7	4.1	3.6
2問	30	3.6	3.1	2.3
1問	22	2.0	1.5	1.2
0問	8	1.1	0.7	0.5

※四分位A B C D各層のそれぞれの正答数の範囲は、全国の値と同じにする。

全国 四分位A B C D 正答数の範囲〔中学校〕

**国語** A (15問~11問) B (10問~9問) C (8問~6問) D (5問~0問)

**数学** A (16問~12問) B (11問~8問) C (7問~5問) D (4問~0問)

全国 四分位A B C D 正答数の範囲〔小学校〕

国語 A (14問～12問) B (11問～10問) C (9問～8問) D (7問～0問)

算数 A (16問～13問) B (12問～11問) C (10問～7問) D (6問～0問)

4. A B C D各層の割合を【中】入力用シートの黄色のセル（国語：H2～H5，算数・数学：02～05）に2教科分をそれぞれ入力する。

	F	G	H	I	J	K
1	国語	貴校	琵琶湖市	滋賀県	全国(公立)	人数
2	A(15～11)		29.1%	30.4%	33.5%	298
3	B(10～9)			20.3%	21.2%	212
4	C(8～6)			27.4%	26.4%	268
5	D(5～0)			21.9%	18.9%	488

5. 【中】印刷用シートに、市町のデータがグラフに反映されているか確認する。



※文部科学省から提供された数値の関係上、各層の割合の合計が100%にならない場合があります。

6. 上記5までのデータを反映させた四分位グラフ作成ファイルを、各学校へ送付する。

# 分析資料の活用方法【学力層分析グラフの作成について②（学校用）】

1. 「入力用シート」のA7のセルに、学校名を入力する。⇒ア
2. 文部科学省より提供された国語、算数・数学の正答数のデータを「入力用シート」の緑色のセル（B7以降、C7以降）に受験者全員分を入力する。⇒イ

小学校  
「[13桁の数字]\_06 解答・回答状況（児童）[2桁の数字].xlsx」  
(学校番号) (学級番号)

中学校  
「[13桁の数字]\_06 解答・回答状況（生徒）[2桁の数字].xlsx」  
(学校番号) (学級番号)

※文部科学省から提供された正答数のデータを取めたファイルは学級（組）ごとに分かれていますので、「入力用シート」には、全学級分を順につなげて入力してください。

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
1					国語	貴校	琵琶湖市	滋賀県	全国(公立)	人数	数学	貴校	琵琶湖市	滋賀県	全国(公立)	人数		
2	学校名	国語	数学		A(15~11)	23.8%	33.5%	30.4%	33.5%	30	A(16~12)	46.8%	27.3%	24.6%	27.3%	59		
3					B(10~9)	20.6%	21.2%	20.3%	21.2%	26	B(11~8)	16.7%	29.3%	28.8%	29.3%	21		
4					C(8~6)	30.2%	26.4%	27.4%	26.4%	38	C(7~5)	31.0%	23.2%	24.2%	23.2%	39		
5					D(5~0)	25.4%	18.9%	21.9%	18.9%	32	D(4~0)	5.6%	20.3%	22.5%	20.3%	7		
6					合計人数 126						合計人数 126							
7	〇〇〇中学校	14	16															

ア  
学校名

イ  
正答数

貴市町名および、貴市町教育委員会に提供された調査結果概況（〇〇市町一生徒（公立））＜正答数＞のデータをもとに値を手入力してください。（2教科それぞれ）

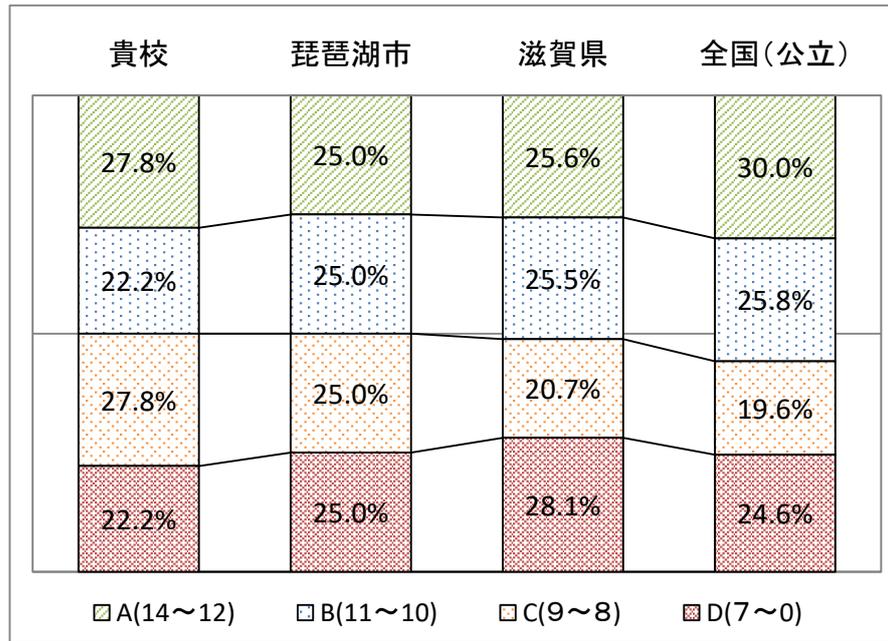
3. 「印刷用シート」のグラフに、学校のデータが反映されていることを確認する。



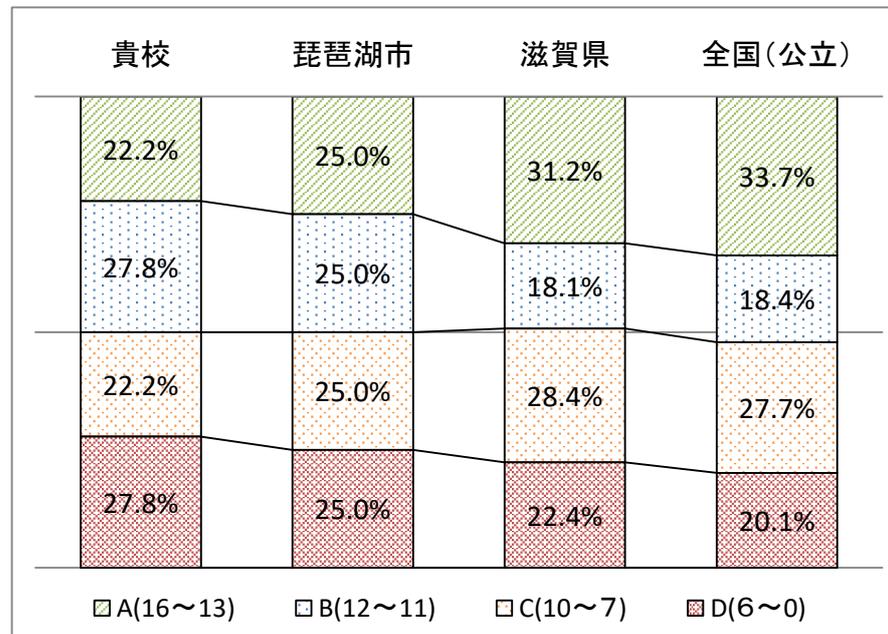
児童生徒を正答数の順に並べ替え、4等分したときの3つの区切りの値が四分位数です。提供された全国の四分位数を基に、児童生徒を4つの学力層（A層～D層）に分けたとき、各学力層の児童生徒数の割合を示したものが「学力層（四分位）分析グラフ」です。

国語

完成イメージ



算数



令和6年度

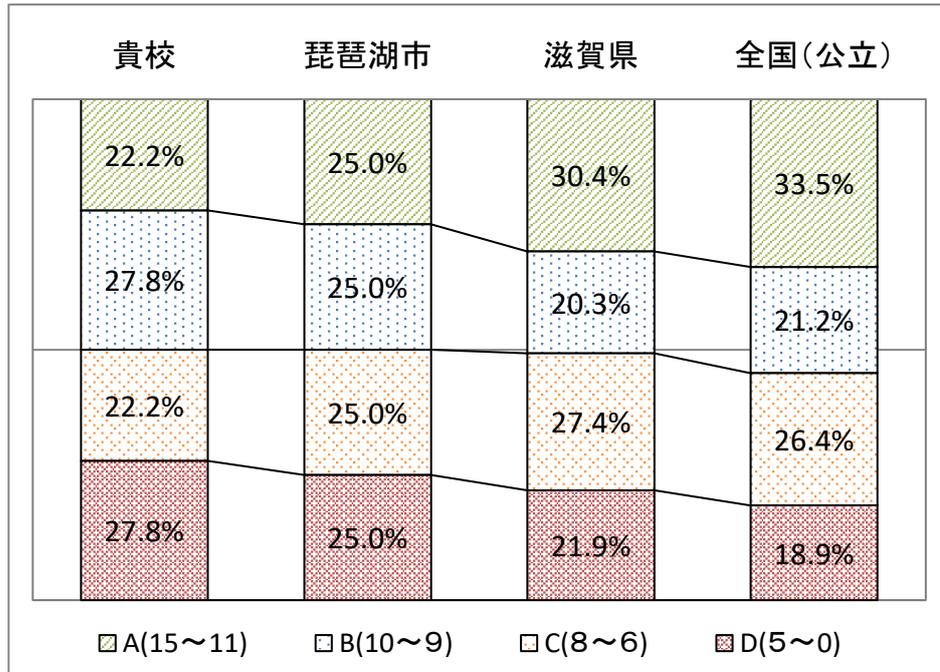
〇〇〇中学校

「学力層（四分位）分析グラフ」とは

児童生徒を正答数の順に並べ替え、4等分したときの3つの区切りの値が四分位数です。提供された全国四分位数を基に、児童生徒を4つの学力層（A層～D層）に分けたとき、各学力層の児童生徒数の割合を示したものが「学力層（四分位）分析グラフ」です。

国語

完成イメージ



数学

